

軽便の思い出を孫の颯人君に話す清水次郎さん。
地域の歴史が伝わり、家族間のつながりも深まっていった。

しおばらしんでん

塩原

SHIOBARASHINDE

ごうど

はまおかちよう

世代の枠を越えて
宝物を共有できる時間
ゆっくりと時が流れ
このまちがもっと好きになる

取材を終えて

今回の取材を通し、かつてこの地域で活躍していた軽便が、今も人々の記憶の中で光り輝いていると感じました。

近年は、核家族化が進み世代間の交流が希薄化しているうえ、インターネットなどの普及により、人と関わらなくても済む時代になっています。軽便は、そんな時代に生きる私たちに、人の温もりや人とのつながりを実感できるきっかけを与えてくれる気がします。

貧しくても夢と希望をもって頑張った時代のシンボル「軽便」。このまちに日本一の軽便が走っていたことを、家族や地域の子どもたちに話してあげてください。はずむ会話の行き着く先に見えてくるもの。家族や地域の絆もいつそう深まるのではないのでしょうか。

【写真提供】花上嘉成氏、

内藤正己氏、石川勝久氏、

山本宗平氏、堤一郎氏、写

真の西原、(有)松下シート

【資料提供】阿形昭氏